

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて

令和3年度「議会による行政評価」からの
評価及び提言書への対応状況

飯田市

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
1 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	産建	産業経済部	<p>・航空機産業に偏らない産業振興支援をどのように進めるか。例えば、製造業では人手不足が顕著でロボット導入を考えざるを得ないなど、企業が市に求めているニーズを把握して的確な支援が求められる。</p>	<p>・中長期的な視点で航空機産業への支援に取り組んできたことにより、エス・バードの整備や信州大学等の機能、環境試験機器の導入等が進むとともに、製造業全般において販路開拓・商品開発・人材育成に取り組んできました。引き続き、今まで培ってきた企業とのネットワークや企業へのヒヤリング調査等により、企業ニーズに応えるような産業振興策を展開していきます。</p> <p>・令和4年度では、企業ニーズに即して人材不足を補うための省力化や生産性向上のために官民連携によるDX推進ワーキングチームにより、IoT, AI, ロボット化の推進に取り組む企業を支援していきます。</p>	<p>1-① 地域産業の育成による高付加価値化</p> <p>1-③ 事業継続と新たなビジネスモデルへの取り組み支援</p> <p>【分野別計画】 地域経済活性化プログラム</p>
			<p>・航空機産業分野の記述が皆無となっているが、前期計画までの取り組みは否定されるものではなく、投資をし、特区の認定を受けているため、今後も航空機産業分野について注視していく必要がある。</p>	<p>・中期計画では、航空機産業分野の記述はありませんが、長野県航空機産業振興ビジョンの当面の対応方針に基づき、現在の需要低迷期を乗り越えるための取り組みとして、培った技術・品質や導入した設備を活かして、空飛ぶ自動車やドローンをはじめとする新たな分野への参入や大学等の連携により電動化に向けた製品・技術開発を支援しています。</p> <p>・また、需要回復期に向けて、エス・バード内工業技術試験研究所へ導入した航空機の環境試験機器の運用について、国や県と連携し、部門長を配置し認証試験機関化に取り組んでいます。更に令和4年度には新たにオペレーターを配置して体制強化を図っていきます。</p>	<p>1-① 地域産業の育成による高付加価値化</p> <p>【分野別計画】 地域経済活性化プログラム</p>
			<p>・「稼ぎ、安心して働ける『魅力ある産業』」として、6次産業は期待できる事業であるが、目標に対して実績が結びついていないため、コロナ禍における販売体制への影響もふまえて、行政が支援する必要がある。</p>	<p>・農業経営者による6次産業化、及び農業と他産業の連携による6次産業化は、新たな付加価値を生むため、稼ぐ産業化には欠かせないものです。このため、国の補助制度の獲得等、個別事案への伴走支援を行うとともに、南信州・飯田産業センター、飯田商工会議所とも連携し、具体的な作目ごとに連携方法について検討を進めています。</p>	<p>1-① 地域産業の育成による高付加価値化</p>
			<p>・地域内経済循環の推進として、「農＋食・観光」をつなげる視点は評価する。この仕組みが定着するよう取り組まれない。</p>	<p>・飯田市農業振興センターのプロジェクトを経て、令和3年2月に設立された「南信州地産地消推進協議会」は飯田市も構成団体となり、各団体と具体的な取組について検討しています。特に、「農＋食・観光」をつなげる仕組みとして、JA直売所を起点とした地産地消プラットフォーム「まちの八百屋」機能の構築を進めています。まずは賛同する宿泊施設から取組を始めていますが、取組の中から課題、ノウハウを導き出しシステム化を目指していきます。</p>	<p>1-② 地域内経済循環の推進</p>

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
1 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	産建	産業経済部	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、4項目の事業推進にあたっては、問題点を把握して取り組まれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において事業承継の課題が顕在化しつつある現状を踏まえ、マッチングシステムによる第三者承継中心の支援を見直し、親族内承継や企業内承継に重点を置いた新たな仕組みによるきめ細やかな支援を実現するため、長野県事業承継・引継ぎ支援センターや飯田商工会議所と連携して検討を進めています。 ・コロナ禍の中にあっても、製造業分野は比較的忙しいという状況が続いており、設備投資等が積極的に行われた反面、新たな分野への参入や新事業に取り組もうとする企業は少ない状況でした。しかしながら、製造現場における人材不足は年々深刻となっており、中長期的な視点で取り組む必要があり、IT等を活用して省力化や生産性向上のニーズが高まる中で、令和4年度は重点事業と位置づけ取り組んでいきます。 ・コロナ禍においては、新事業や飲食・観光分野の起業は難しい側面があり、I-Portによる支援案件は少ない状況が続いているところですが、令和3年度は、アフターコロナを見据えて世界的に注目されつつある昆虫食や、働き方改革による副業人材の活用等の新たな視点が持てるように、新たに新事業創出セミナーを2回開催し新事業展開への機運の醸成に努めています。また、コロナ禍における移住定住や副業の動きを捉えて、ビジネスプランコンペティションをPRしてより多くの起業家が創出されるよう取り組みます。 ・コロナ禍でリアルな講座、セミナー、シンポジウム等の開催が一時的に難しい環境となりましたが、いち早くオンラインまたはオンライン併用による開催方式を取り入れて、例年どおりの実績に近い状況で取り組みました。引き続き、企業へのアンケート調査を通じてニーズを把握して、様々な講座やセミナーに取り組んでいきます。 	<p>1-③事業継続と新たなビジネスモデルへの取り組み支援</p> <p>【分野別計画】 地域経済活性化プログラム</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・信州大学との連携強化を引き続き図り、農学部系・教育学部系の学部設置、南信州キャンパスの実現に取り組まれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度に開講した信州大学航空機システム共同研究講座は、令和3年度から2期目がスタートすることができ、多くの学生が学び、当市もコンソーシアムの一員として運営支援に取り組んでいます。 ・南信州サテライトキャンパスの充実に向けて、新たに信州大学ランドスケープ・プランニング共同研究講座の開設を目指し、R3年12月に立ち上がった運営支援のためのコンソーシアムに当市も参画しながら、R4年度から企業版ふるさと納税を活用した資金確保と教授による開設準備への支援に取り組めます。 ・信州大学新学部の当地域への設置実現に向け、官民一体で誘致活動と大学支援を行う信州大学新学部誘致推進協議会が設立されました。大学誘致に向けた地域の機運醸成と会員拡大など、誘致活動の推進に向けて、協議会と連携して取り組みます。 	<p>1-④地域産業を支える担い手の育成・確保と起業家の育成</p> <p>【分野別計画】 地域経済活性化プログラム</p>	

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
1 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	産建	産業経済部	・エス・バードについては、出前講座、PRなどを行い、より多くの市民、企業が気軽に利活用できる敷居の低い場となるよう取り組まれない。	・エス・バードが幅広い年代に様々な形で利活用されるように、エス・バード通信の定期的な発行、飯田水引体験コーナーやデジタルものづくり工房ファブスタ★の設置運営や、南信州観光公社や教育委員会と連携した修学旅行や社会見学の受け入れ等に取り組み、コロナ禍にあっても多くの方に利用いただいています。 ・更に、テレワーク向けや利用者のニーズに沿った共創の場の拡充、産業観光を視点を飯田水引の展示コーナーの設置、食品棟の試作・調理室等を活用した料理教室の開催等施設の特徴を活かし、引く続き利活用が促進されるよう取り組んでいきます。	1-④地域産業を支える担い手の育成・確保と起業家の育成 【分野別計画】 地域経済活性化プログラム
			・農業定着率が高い親元就農、建築関係分野の匠の後継者育成に取り組まれない。	・65歳以上の農家の約8割で農業後継者が確保できていない状況にあります。認定農業者等主な所得が農業である農家については、国県の支援を十分に活用するとともに、兼業農家、中小規模農家も含め後継者が確保できるよう、市独自の支援金の支給や施設、機械、労働力等についての支援を実施していきます。 ・コロナ禍により在宅機会が増え、リフォームの需要が増加しましたが、建築関連の人材高齢化により、十分な対応が難しい事例も聞いており、新たな若い世代の人材確保と定着、後継者育成について、あらためて関係機関とともに対応の検討を進めていきます。	1-④地域産業を支える担い手の育成・確保と起業家の育成
			・産業としての農業を成り立たせ、持続可能な地域づくりを実現できるよう、中小規模でも戦略的に稼ぐことができる魅力ある農業の実現に取り組まれない。	・反収の高い作目、労働時間の短い作目等に注目し、より効率的な生産を目指します。新規就農者については、夏秋きゅうりと市田柿の組み合わせを推奨しています。労働時間と所得のバランスが高いぶどうについては、産地化を目指し、南信州管内の自治体と連携する中で、国の支援措置の活用も視野に入れていきます。	1-⑤地域が支える農林業の推進
			・稼ぐ農業の振興と「農ある豊かな暮らし」に向けた取り組みを推進し、「地域が」ではなく「地域を」支える農林業の実現に取り組まれない。	・域産域消の観点から、地域の農産物を積極的に購入する消費者が増えることで地域が農業を支えると考えていますが、農村地域は個々の農家が元気であったり、農村独自の豊かな暮らしができることで、持続可能な地域づくりにつながることから、様々な取組を通じて支援をしていきます。なお、小戦略名も「地域が支える農林業の推進」から、「地域に根差した農林業の推進」に変更したいと考えています。	1-⑤地域が支える農林業の推進
			・天龍峡の観光については、新たな取り組みも始まったことから、それらを結ぶ周遊観光に取り組まれない。	・天龍峡パーキングエリアの広場及び建物の管理について、国交省から飯田市に移管されることになり、現状のテント市としての利用のほか、様々なイベントの利用や周辺地域の観光等の案内の拠点施設として活用を図るよう取り組みます。 ・そらさんぽ天龍峡から千代下村広場、龍東道という天龍峡南部の自然豊かで起伏に富んだ遊歩道については、散策というよりは「トレッキング」的なコースとしてPRするなど、観光客のニーズに沿った楽しみ方を提案していきます。	1-⑥経済効果を生む観光産業の推進 【分野別計画】 飯田市観光振興ビジョン 地域経済活性化プログラム 名勝天龍峡整備計画、名勝天龍峡保存計画

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
1 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	産建	産業経済部	<ul style="list-style-type: none"> 遠山郷については、例えばファンドや民間活力の導入検討を視野に入れながら、地元との協議をしっかりと行い、早急な対応を望む。 	<p>遠山郷は近い将来、三遠南信自動車道青崩トンネルの開通により多くの観光客が訪れることが期待されており地域の活力を創出するチャンスでもあります。観光客の増加を視野に入れ、信州の南の玄関口としての役割を果たす必要があります。専門家の知見を参考にしつつ地元の皆さんのご意見をしっかりと聞き、民間活力導入の検討を含め、道の駅遠山郷の再生や、しらびそ高原、南アルプスなどの地域資源を活用した観光産業の推進に取り組みます。</p>	<p>1-⑥ 経済効果を生む観光産業の推進 【分野別計画】 飯田市観光振興ビジョン 遠山郷観光振興戦略計画</p>
			<ul style="list-style-type: none"> コロナ収束後を見据えた観光戦略として、南信州観光公社と連携し、インバウンドや地元が潤う仕組みづくりに取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 旅の形態が個人旅行、自然回帰志向と、中央アルプス、南アルプスに囲まれた、この南信州飯田の持つ豊かな自然は大きな強みであり、飯田の認知度向上へ、引き続きプロモーションを強化していきます。 インバウンドは、木曾、上伊那、南信州の3地域を周遊するモデルコースづくり、さらに在留外国人を対象としたモニターツアー催行、トライアル販売と、回復期を見据えた取組を継続していきます。 一般旅行、体験教育旅行への昼食提供として、中心市街地に集積する飲食店を「まちなかドライブイン」とする、今ある地域の資源を活用した誘客戦略をさらに拡充し、外貨獲得への取組を進めていきます。 	<p>1-⑥ 経済効果を生む観光産業の推進 【分野別計画】 地域経済活性化プログラム 飯田市観光振興ビジョン</p>
			<ul style="list-style-type: none"> 当地に資する企業への戦略的なアプローチや仕掛けを展開されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 製造業が集積し、(公財)南信州・飯田産業センターを始めとする産業支援機関による企業活動への支援という強みを生かし、長野県の県外事務所等とも連携し企業誘致活動に取り組んでいます。リニア中央新幹線及び三遠南信自動車道の整備やコロナ禍における時代の変革を受け、グリーンリカバリー、デジタル化、物流等新たな視点も踏まえた企業誘致に取り組めます。 	<p>1-⑧ 企業誘致、オフィス誘致の推進 【分野別計画】 地域経済活性化プログラム</p>
			<ul style="list-style-type: none"> コロナ収束後を見据えたオフィス誘致、ワーケーションなど、先行して取り組んでいる地域があることから、危機感を持って取り組まれたい。 	<ul style="list-style-type: none"> サテライトオフィス誘致について、令和2年度よりオフィス開設支援や特設サイトを開設するなど取り組みを開始し、令和3年度では地方創生テレワーク交付金を活用したエス・バードへの施設整備と企業誘致活動を行っています。現在は地域課題解決など官民連携に関心の高い企業の地方志向が強くなっていることから、令和4年度も引き続き地域課題を通じ企業と自治体を結びつけるマッチングサービス等を活用し、地方進出を検討する企業等に向けた情報発信等、サテライトオフィス誘致に取り組めます。 	<p>1-⑧ 企業誘致、オフィス誘致の推進 【分野別計画】 地域経済活性化プログラム</p>

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
2	飯田の魅力 を発信し、つ ながる人を 増やし、飯田 市への人の 流れをつくる	産 建 ・ 総 務 ・ 産 業 経 済 部 ・ 市 民 協 働 環 境 部	・これまで取り組んできた「小さな世界都市」を目指すブランディングプロモーションと基本目標2の小戦略①との関係性を明確にされたい。	・前期計画では、世界人形劇フェスティバル、AVIAMA総会、東京オリンピック・パラリンピックといった海外から多くの外国人を招くイベントを活用したブランディング、プロモーションに取り組んできました。 ・中期計画では、コロナ禍の経験から新たな日常に対応のできる取組の再検討を行い、コロナ禍でも有効なインターネットの活用にて化して、Webサイト・SNSの充実と、PRに取り組みます。	2-① 飯田のブランド力の向上と魅力の発信
			・津田塾大学、飯田コアカレッジとの連携など、これまでの取り組みを大切にされたい。	・令和3年度の津田塾大学との連携は、若者主体のシンポジウムを企画し、明治大学、飯田女子高校、下伊那農業高校の協力の下、地域課題に取り組んだ学生の活動発表によって飯田を発信していただきました。また、飯田コアカレッジとの連携は、飯田の魅力を紹介するWebサイト等の充実に学生の力を活用してきました。 ・引き続き、津田塾大学、飯田コアカレッジと連携して、飯田の認知度向上、魅力の発信に取り組みます。	2-① 飯田のブランド力の向上と魅力の発信
			・賑わいの創出には若者の存在が欠かせないため、中高生、若者の意見を十分に取り入れ、進められたい。	・若者をはじめ、多世代及び多様な主体が連携し、産官学民連携の活動を行うことで、丘のまちの魅力向上及びにぎわい創出につながるよう、各事業に取り組んでいます。今後も若い世代と市民団体が交流しやすい環境を整備するとともに、旧ピアゴも新たな拠点として生かした様々な取組が行うことができるよう支援します。	2-② 中心市街地の賑わいのある街づくり 【分野別計画】 第3期飯田市中心市街地活性化基本計画
			・整備事業の取り組みが、にぎわいある交流事業につながるよう取り組まれたい。	・民間企業と協働し、空きビル(旧ピアゴ)を活用したヒト・モノ・コトが集まる「活気あるまち」を目指し、賑わいの再生に取り組めます。施設には、貸館に加え、様々な交流が生まれる支援やスペースを有し、オープン時から市民活動が活発に行われるよう市民ワーキング会議等を実施し利用についても検討しているところです。完成については、令和4年5月中旬のオープンを目指します。	2-② 中心市街地の賑わいのある街づくり 【分野別計画】 第3期飯田市中心市街地活性化基本計画
			・つなぐ事業の参加企業の増加、つなぐ事業のキャリア教育との連携、県と市、そして企業との連携、高校卒業後に一旦地元を離れた学生が、地元企業に就職できる仕組みや工夫について取り組まれたい。	・高校生が地元企業と接することを通じて地元の産業を知り、働くことの意義や大切さを理解することを目的として「キャリアガイダンス」など高校と連携した新たな事業に取り組んでいます。また、オンラインによる採用活動や動画による企業の情報発信を促進するため、南信州地域の就活のポータルサイトである飯田職業安定協会のホームページのリニューアルに取り組んでいます。なお、つなぐ事業の参加企業は今年度5事業所加わり66事業所となっています。	2-③ 「結い」によるUターン・Iターン移住定住の推進 【分野別計画】 地域経済活性化プログラム

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
3 “結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む	社文	教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の児童生徒が増加傾向にあり、不登校対策は大きな課題。小中連携・一貫教育が中1ギャップの軽減による不登校の抑制がねらいであったことから、取り組みの方向性を明確にすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携・一貫教育のねらいは、不登校対策としての人間関係づくりと学力の向上であることを明確にし、学級づくりを支援します。 ・不登校児童生徒の新たな学校外の居場所として、(仮称)飯田駅前プラザに学習支援室を設置するとともに、不登校児童生徒を支援している民間施設等をつなぐ機能の強化や義務教育卒業後も繋がる場所を目指します。 	3-①学力保障・学力の向上 3-②温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援
			<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員の適切な配置については、飯田市が定めた配置基準に対するの県との連携も含め今後も検討が必要。また、特別支援教育に関する研修からの取り組み展開が見えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員については、引き続き児童生徒の状況や学校の現状等の把握に努め、支援を必要とする児童生徒に適切な支援が行き届くような配置に努めます。また、個に寄り添った支援の実現に向け、引き続き学校、県教委、関係機関との連携を図ります。 ・特別支援教育は、特別支援学級はもとより全学級において行われるべきであるため、全教員が特別支援教育に関する認識や理解を深め、学級経営や授業につなげていくことができるよう、今後は通常学級における特別支援教育をテーマにした研修にも注力します。また研修等の実施にあたっては、専門機関からの指導・助言も受けてさらなる充実を図ります。 	3-②温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援
			<ul style="list-style-type: none"> ・「誰ひとり取り残さない教育や支援」のためには、学校教育の枠を越えた福祉的な支援も必要と考える。関係機関等との連携や協働も検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育や不登校児童生徒への支援については、現在も誰ひとり取り残さないよう個に寄り添った教育や支援の実現に向けて、学校における取組はもとより、県教委、医療、福祉、民間施設など関係機関と連携して進めていますが、今後も、一層の連携強化を図りながら取り組みます。 	3-②温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援
			<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールの抱える課題は多く、それらの解決のための方策が見えてこない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「めざす子ども像」の実現に向けて、地域・家庭・学校が取り組むことを共有しながら、子どもたちの育ちの支援を行う環境が整ってきています。 ・学習支援、部活動支援、校内環境整備、通学路の安全対策等々の様々な活動に地域住民の皆さんが参画、支援していく動きが進んできています。コロナ禍においても、コミュニティスクールの仕組みを生かして、学校の課題を共有する中で、学校内の消毒作業を実施するなど地域が学校支援を実施しています。 ・今後も公民館がコーディネート役として地域・家庭・学校を繋ぎながら、「めざす子ども像」の実現に向けて、三者の取組を進めます。 	3-③飯田コミュニティスクールを活かした地域・学校・家庭での教育の推進 【分野別計画】 教育振興基本計画 飯田市民館基本方針
<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の地産地消、有機食材の導入拡大のKPIである「地元産野菜利用率の向上」について、目標設定の意図を明確にされたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の当市の主要野菜10品目の地元産使用率は50%前後、週5日の米飯の米は全量地元産を使用しており、国、県の平均と比較しても高い水準です。野菜には旬があり、地元産が入手困難な期間があることから、他地域産の野菜も購入せざるを得ない中、調理場だけでなく、地域の生産農家や販売所、取扱事業所等の協力を得て、相当な努力をもってこの水準を維持しています。向上を目指す意識を持つことは重要ですが、現在の高水準を維持していくことに取り組むべき、との考えからこの目標を設定しています。 	3-④食育の推進(有機野菜使用献立試行)			

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管 部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
3 “結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む	社文	教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ希望について、ニーズなどの調査が必要。支援員などの受け入れ体制の拡充、施設の開館時間延長などは、地域の実情に合わせて十分な検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ希望のニーズ調査については、本年度アンケート調査を実施しました。この結果に基づき、現在、施設職員の代表、学校教育課職員により業務改善委員会を立ち上げ、課題解決に向けた検討を行っており、今後段階的に改善に向けた取組を進めます。 	3-⑥ 児童の放課後の居場所づくり
			<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会での意見交換を始めたばかりであり、今後の動向を注視していく。また、単なる意見交換に終わらないよう、スケジュールなどの検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度全ての学校運営協議会で2回の意見交換を行いました。ここで出された意見を参考に「今後の検討の進め方に関する資料(仮題)」を作成し、特色・魅力ある学校づくりや、学校の配置・枠組みについて、各中学校区の実情・課題に合わせて検討を進めていきます。 	3-⑦ 少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組
			<ul style="list-style-type: none"> リニア関連の工事の進捗に伴う通学路の安全確保は重要課題。また、小中学校のトイレ洋式化や学習に集中できる環境の整備などの課題について、計画的な整備が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> リニア中央新幹線や三遠南信自動車道といった事業に伴う大型車両の交通量の増加など地域の交通環境の変化が見込まれるなか、通学路の安全確保を更に推進するため、従来の通学路の安全検討の庁内の事務局会議(学校教育課・土木課・危機管理室)に、国県関連事業課、リニア推進課、子育て支援課を交えた「通学路安全検討庁内会議」を新たに設置しました。連携して情報共有し更なる安全確保に努めます。 小中学校の各階男女それぞれのトイレに最低限1つの洋式トイレの設置及び普通教室他の空調設備について、令和3年度までに整備を完了いたしました。引き続き、時代の変化に対応した施設環境の整備を計画的に進めていくため、教育委員会施設等総合管理計画に基づき実施していきます。 	3-⑧ 防犯・通学路の安全対策・環境整備・気候変動対応 【分野別計画】 教育委員会施設等総合管理計画計画
			<ul style="list-style-type: none"> 小戦略3-②、3-③のKPIとして「学習支援ボランティアの人数」を追加するよう検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学校には、登下校の見守り等様々な形で学校活動を支援してくれている方々が大勢います。学校支援ボランティアの登録数については、事務事業進行管理表において活動指標として掲載しています。学習支援ボランティアも、ほとんどの中学校や一部小学校において、主に放課後に家庭学習や自主学習を見てくれるなど活動してくれていますが、全体の人数は把握していません。現在はコロナ下で活動も自粛されていると聞いていますので、来年度、各学校に調査等実施することを含め、補足指標として追加することを検討します。 	3-② 温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援 3-③飯田コミュニティスクールを活かした地域・学校・家庭での教育の推進
<ul style="list-style-type: none"> 小戦略3-⑥について、保護者のニーズや満足度に関する指標の追加を検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者のニーズや満足度については、本年度アンケート調査を実施しています。指標の設定には、毎年アンケート調査を実施しなければならず、保護者に負担をかけるため、業務改善に努めながら、3～5年に一回程度のアンケート調査により、保護者のニーズや満足度を調べていきたいと考えております。 	3-⑥ 児童の放課後の居場所づくり			

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
4 豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む	社文	教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> 市民が主体的に運営する学びの場について、関係者の高齢化が進んでいることから、よりよい支援のために現状分析や支援の検証が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民主体の学びが指導者や参加者の高齢化の進行によりこれまでのような学びの機会が維持できない状況が散見されます。それと共に学びも多様化しています。市民主体の学びは地域を理解し維持していくうえでも重要であり、これに対応できるよう社会教育機関が連携して支援していきます。 コロナ禍にあっても高齢者を中心に学びの意欲がみられます。引き続き市民主体の運営に心がけながら市民のニーズに応える学びの場づくりを支援していきます。また、コロナ禍における課題が顕在化しています。外出ができない高齢世代への対応等を各種団体と連携して取り組めるよう検討を進めます。 住民自治を継続していくためには、次世代育成が重要であると認識しています。公民館では現在、小中学生を対象としたふるさと学習や体験活動等を通して、地域への理解を深め、誇りや愛着を育む事業を展開していますが、高校生や青年まで年齢によって系統立てた学びが展開されるよう検討を進めています。 	4-① 住民の主体的な学びあいの支援 4-③ 飯田の価値と魅力の学びと発信 4-④ 伝統文化、文化財の保存・継承・活用の推進 【分野別計画】 教育振興基本計画 飯田市公民館基本方針
			<ul style="list-style-type: none"> LG教育の位置付けや取り組みの方向性の明確化が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に誇りと愛着を持ち、地球規模で物事を考え行動できる人材を育むため、地域を学ぶ「ふるさと学習」を基軸にして、Local(地域)の視点とGlobal(地球)の視点のつながりを意識した学習活動を進めます。 令和3年度は、小中学校と美術博物館が連携して、没後110年菱田春草展の鑑賞と事前・事後学習を組み合わせて、郷土が生んだ偉人である春草の画業と、伝統的な日本絵画に、西洋の技法を積極的に取り入れた新たな日本画を創造し続けた春草の生涯から自分たちの生き方を考える「春草学習」を実施しました。 	4-②子どもの主体性、創造性、社会性、協調性、課題解決力などを育む学習の展開
			<ul style="list-style-type: none"> 伝統文化や文化財の活用の推進について、具体的な活動内容が見受けられない。 	<ul style="list-style-type: none"> 飯田市では、上村、南信濃2地区の霜月祭り保存会と共に全国の国指定神楽保存団体による「全国神楽・振興協議会」に加入し、ユネスコ世界無形文化遺産登録や保存継承に向けた取組を進めています。 史跡恒川官衙遺跡では恒川清水の史跡整備を進めており、令和4年3月には供用開始されます。また、今後は史跡の価値や魅力を伝える史跡ガイド施設や正倉院エリア等の整備を地域と連携し進めていきます。 飯田市上郷考古博物館の常設展示について、史跡の価値を伝えるために史跡恒川官衙遺跡と史跡飯田古墳群に関連する内容を加えた一部展示替えを行いました。今後、史跡飯田古墳群の活用につながるガイド要素を持つ展示へと深化させていきます。 名勝天龍峡について、ガイド施設「よって館天龍峡」の内容と連携した「さんぼ見どころマップ」を作成するとともに、観光課や地域と連携し、「名勝天龍峡の魅力再発見！～自然・花木編～」フィールドワークを実施しました。今後も、歴史や景観、地質などの分野からこの取組を継続し、名勝天龍峡の持つ様々な分野からの価値や魅力を周知し、天龍峡を語ることでできる人づくりにつなげていきます。 文化財を観光資源として活用する南信州観光公社のツアー企画と連携し講師派遣等を行っており、こうした取組も進めていきます。 	

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
4 豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む	社文	教育委員会	<p>・飯田市公民館の(仮称)飯田駅前プラザ移転については、市民、ことに地域の皆さん、利用の想定される方の意見をしっかり聞いて検討されたい。</p>	<p>・市民ワーキング・若者ワーキング・高校生ワーキングを立ち上げ、運営や取り組み内容を検討しています。 ・また、飯田市公民館を定期的に利用する団体への説明会を行い、施設要望をお聞きし、可能な限り、要望が実現できるよう、飯田駅前プラザ株式会社との協議を行ってきています。 ・今後も、重点対象としてる高校生世代を含めて施設の利活用が想定される方々の意見を吸い上げ、運営に生かしていきます。</p>	<p>2-② 中心市街地の賑わいのある街づくり 4-① 住民の主体的な学びあいの支援 4-② 子どもの主体性、創造性、社会性、協調性、課題解決力などを育む学習の展開 4-⑤ 社会教育施設の整備、サービス向上 10-① 多様性とムツの行動力でまちづくりを推進 10-③ 国籍や文化等の多様性を認め合い、外国人住民と共生する地域づくり</p>
			<p>・「飯田市美術館来館者数」は、目標値は直しても、推移の把握は必要。</p>	<p>・来館者数は美術博物館活動の成果を測る客観的な数値として、事業毎の来館者数と併せて、継続して把握し事業の参考としていきます。</p>	<p>4-③ 飯田の価値と魅力の学びと発信 【分野別計画】 飯田美術博物館2028ビジョン・基本プラン</p>
			<p>・「地域資源(指定文化財)活用件数」の設定がわからないため、より明確化が必要。</p>	<p>・各地区の公民館や地域主体による文化財を活用した行事や学習会、伝承活動の総数を集計した数字です。HP「文化財保護いいだ」に各地区の文化財を活用した人づくり・地域づくりのための活用事例を紹介しています。今後もこうした地域の取組に講師派遣等を行うなど、文化財を活用した市民活動の支援を進めます。</p>	

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
5 文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる	社文	教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・「小さな世界都市」の実現への具体的な取り組みや方向性の明確化が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小都市にもかかわらず広く世界からまちづくりの意義や価値が認められ、多くの人を惹きつける「小さな世界都市」を目指し、特に「人形劇のまち」として、伝統と現代を融合させた人形劇文化を創造し世界に向けて発信することで、世界の人形劇文化の振興に寄与し、人形劇を通じたグローバルな連携と交流を進める取組を進めます。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、ここ数年は実施できていませんが、いいだ人形劇フェスタでの海外劇団招聘やいいだ人形劇センターによるせかいの劇場で海外の優れた人形劇芸術を紹介する公演を実施し、交流を深めてきました。 ・いいだ人形劇フェスタでは海外から約50の劇団からのエントリーがあるなど、人形劇のまち飯田として知名度が上がってきています。 ・引き続き、AVIAMAや韓国・台湾とのネットワークを活用し、飯田市へ世界の人形劇を継続的に招聘し、国際的な交流を進めます。また、シャルルヴィル・メジェール市の世界フェスや韓国・台湾へ地域の劇団を派遣し交流を深めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 【分野別計画】教育振興計画
			<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術に偏っているように感じる。より多様な文化芸術の取り組みが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田文化会館については、多様な主体と協働しながら舞台芸術を中心とした取組を行ってきており、舞台芸術以外の多様な文化芸術活動については、公民館や美術博物館等において、その推進や支援に係る取組を進めてきています。 	<ul style="list-style-type: none"> 4-① 住民の主体的な学びあいの支援 4-③ 飯田の価値と魅力の学びと発信 4-④ 伝統文化、文化財の保存・継承・活用の推進 【分野別計画】教育振興基本計画
			<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場や交通アクセスも重要な課題であるが、飯田下伊那の文化芸術の拠点としての位置付けは重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田文化会館は、飯田下伊那地域の舞台芸術活動を創造・発信する中核拠点施設であるとしてとらえています。新飯田文化会館の整備事業については、広く市民の意見を聞き、利用団体からの要望や専門的な知見も取り入れながら、基本構想、整備計画を策定し、進めてまいります。 	<ul style="list-style-type: none"> 【分野別計画】教育振興計画
			<ul style="list-style-type: none"> ・「何の為のスポーツか」「何を目的としたスポーツイベントか」再確認が必要。小戦略の目的や方向性をより明確にした取り組みが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツは、次世代を担う子どもたちの体力の向上、心身の健康の保持増進、人と人との交流の促進による地域の一体感の醸成といった意義や役割があります。スポーツを「する」「みる」「支える」視点で、飯田のスポーツ文化の醸成に取り組んでいきます。スポーツイベントについては、日常的な運動・スポーツ習慣の定着とともに、地域の魅力発信の二つの目的をもって開催していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 5-④ 市民のスポーツ活動、コミュニティづくりの支援、スポーツイベントの開催 【分野別計画】飯田市スポーツ推進計画

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管 部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
5 文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる	社文	教育委員会	・トップアスリートの育成には充実した練習環境も必要になってくるが、育成のための具体的な取り組みが見えてこない。	・飯田市スポーツ協会等と連携して、スポーツ教室の開催などトップアスリートとの交流や指導を受けられる機会を提供していきます。また、技術面だけでなく競技者の運動能力や主体性を引き出し高める指導ができる人材の確保・育成に取り組んでいきます。	5-⑤ 競技スポーツ人口の拡大と競技志向の向上 【分野別計画】 飯田市スポーツ推進計画
			・全市型競技別スポーツスクールの現状や実態から今後の方向性について検証が必要。	・全市型競技別スポーツスクールは、生涯スポーツの土台を築く中学生の地域におけるスポーツ環境の充実を目的に、飯田市スポーツ協会と協働して開催しています。試行実施から3年目となる今年度は、新たに体験型スクールを設け、運動機会の少ない生徒も参加しやすい環境づくりを行いました。今後も、中学生のニーズや中学生を取り巻く学校・地域のスポーツ環境のより良い在り方を踏まえ、方向性を検証しながら、現在の方向性を基軸として進めていきます。	5-⑥ 中学生期の多様なスポーツ環境の充実 【分野別計画】 飯田市スポーツ推進計画
			・スポーツ施設の計画的な整備、施設利用のネット予約・使用料決済はサービス向上のため必要。一方で、予約・決済システムに不慣れな人にも配慮が必要。	・スポーツ施設の整備は、教育委員会施設等総合管理計画に基づき進めていきます。施設利用のネット予約システムは、令和4年度の下半期から利用開始できるように整備を進めています。まずは、予約手続・許可書発行が完結的にできるシステムを導入し、利用状況を見ながら使用料決済の導入を検討していきます。不慣れな方もいるためシステム導入後も窓口での対応を並行して進めていきます。	5-⑦ スポーツ施設の整備・サービス向上 【分野別計画】 飯田市教育委員会施設等総合管理計画
			・「市内で上演した人形劇公演数」の目標設定がわからない。	・令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公演数の大きなウェイトを占めるいいだ人形劇フェスタが中止となりました。フェスタ以外の公演については50回程度を目標としており、毎週どこかで人形劇が上演されている計算になります。フェスタとあわせて、年間500公演という目標は妥当なものと考えます。	【分野別計画】教育振興計画

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
6 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	社文	健康福祉部	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活イベントについて、参加者数、カップル成立組数など実績を上げていることについては評価できるが、実際に婚姻に結びついているかが検証できていない状況は課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活イベントの参加者でその後の結婚が把握できるのは、飯田市結婚相談所の登録者である場合と、本人が報告してくれた場合のみです。メール等で本人にその後の様子を知らせてほしいと複数回依頼していますが、全員からの連絡はないのが現状で、強要することは控えています。 ・いくつかのイベントやセミナーに参加することで自分を磨いていく方も多く、その後結婚をされた方は、結婚支援があったからこそその結果であると捉えています。イベントで成立したカップルから入籍の報告をいただくこともあります。数年後に婚活イベントと結びついたらの検証は困難です。 ・しかし、イベント等に毎回定員以上の申し込みがある状況は、真剣に結婚したいと願い出会いの機会を求めている方のニーズに応えられていると考えます。 	【分野別計画】 地域福祉計画・地域福祉活動計画 子ども・子育て支援事業計画
			<ul style="list-style-type: none"> ・総体的に何かを行えば成果が上がるというテーマではないため、個別具体的に対応策が重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・真剣に結婚を考えている方は、出会いの機会を求めていたり、お付き合いの進め方やお互いの家庭のこと等、人それぞれに違った悩みを抱えています。20地区の結婚相談員や結婚相談所のアドバイザーが相談やお見合いなどを積極的に進めています。地道な活動ですが、イベントやセミナー等と並行して個別の支援を続けていくことを重視しています。 	【分野別計画】 地域福祉計画・地域福祉活動計画 子ども・子育て支援事業計画
			<ul style="list-style-type: none"> ・一層のサポート体制の充実を図るためには、地域の子育て支援団体等(多様な主体)との連携も回り、行政と地域と一体となって取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに産後支援体制も整え、妊娠期から産後にかけてサポート体制を強化してきました。今後、感染症の拡大など社会情勢による変化に対応した支援や、保護者が求める支援についてアンケート等を通してつかんでいきます。 ・また、つどいの広場と地域を繋ぎ、地域社会全体で子育てをサポートする体制の充実を図ります。 	6-② 出産の希望をかなえる 6-③ 孤立を防ぎ、子育ての希望をかなえる
			<ul style="list-style-type: none"> ・子育て応援アプリの導入は評価できる。利用者の声を反映したバージョンアップなど今後の取り組みが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリに欲しい情報やコンテンツについて、アンケートなど子育て当事者の声を踏まえて、市独自の動画を作成するなど、情報を充実させていきます。 	6-③ 孤立を防ぎ、子育ての希望をかなえる
			<ul style="list-style-type: none"> ・父親(男性)の育休取得促進、父親の子育て参加への意識啓発など、子育てにおける男女共同参画推進が重要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠届提出時に、「いいだパパナビ」を手渡し、育児参加の啓発をしています。土曜日開館できるつどいの広場を拡充し、休日の父親が子どもを連れて遊びに行ける機会を増やしました。また、つどいの広場で父親の育児参加を啓発する講座を実施していきます。 	6-③ 孤立を防ぎ、子育ての希望をかなえる
			<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに対する世代間ギャップがある。現在の子育てに合った理解が重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師の2カ月児訪問の際に、現在の子育てを祖父母に伝える冊子「まごナビ」を手渡すことで、世代間の理解の促進を図ります。 	

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
6 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	社文	健康福祉部	<p>・「子育て環境のブランド化」について、UIJターンした子育て世代からの聞き取り調査を実施し、移住先の決め手の要因としても分析が必要。</p>	<p>・庁内関係課と連携し、UIJターンした子育て世代を対象としたアンケート調査や懇談の機会を設けるなど、移住先として選択した理由を分析し、時代の流れにも沿うように短期的な視点と長期的な視点の両面から研究を進めます。</p>	6-④ 飯田の持ち味を活かし、豊かな育ちを支える
			<p>・婚活イベントについて、参加者数、カップル成立組数など実績を上げていることについては評価できるが、少子化対策事業の婚活イベントなので、婚姻や出産に結び付いたことを把握できるような指標やデータなど方途を考えられたい。</p>	<p>・結婚支援事業を少子化対策として数字で評価するのは難しいものがあります。飯田市へ提出された婚姻届や出生届の数に婚活イベントから結びついたケースがあったとしても僅かと考えられます。</p> <p>・結婚相談所への相談や登録は、ほぼ30歳以上で約6割が40歳以上の方です。結婚相談所登録者向けの交流会も開催していますが、これから出産の時期を迎える20歳30歳代の方向けには、まず出会いの機会となるイベントや、自分磨きのためのセミナーが有効であるとみて開催をしています。</p>	【分野別計画】 地域福祉計画・地域福祉活動計画 子ども・子育て支援事業計画
			<p>・「つどいの広場延べ利用者数」「ゆいきつず広場利用組数」は引き続き必要。また、これに加えて、コロナ禍を鑑みて「オンライン・リモート対応件数」「電話対応件数」を追加してはどうか。(提案)</p>	<p>・事務事業進行管理表の活動指標に、「つどいの広場でのオンライン・リモート相談件数」「つどいの広場での電話対応件数」を追加します。</p>	6-③ 孤立を防ぎ、子育ての希望をかなえる

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
7 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす	社文	健康福祉部	<p>・健康維持に口腔衛生は重要であり、戦略(考え方)において「口腔衛生(お口の健康)の強化」を掲げているが、口腔衛生をどう進めていくかの具体性が見えない。</p>	<p>・現在、各種保健事業を始めとし、保育園、小学校、企業への出前形式により、乳児から高齢者までの歯科指導を行っています。今年度は、う歯予防・歯周病予防・フレイル予防の観点でライフステージごとに実態を調査しながら課題を整理しています。令和4年度は新たに40歳歯科健診を導入し、定期受診へとつながる仕組みについて歯科医師会と研究します。また、妊娠期の歯科指導の充実や既存の保健事業を活用したお口の健康の実態調査を引き続き行い、課題をみえる化していきます。</p>	7-② 働き盛り世代からの健康づくり
			<p>・現状のフレイル状態のチェックと同時に、飯田市のフレイル割合の高い理由を検証し、現状と原因の両方向からのフレイル対策の強化が必要。同時に自ら行動を起こしたとらない高齢者への検診受診の働きかけ・継続した保健指導実施の推進も重要。</p>	<p>・2018年に実施した「暮らしと健康の調査」では他市と比較しフレイルが多いという結果でしたが、2019年の調査ではフレイルの割合は平均値でした。フレイルの原因は生活習慣病、加齢、社会的要因やその他複合的要因によるもので、基礎疾患を基に、合併症の併発などから重症化し進みます。このため、フレイル対策につなげる取組として、まず生活習慣病の予防のために後期高齢者健診の受診者の増加を図り、未受診者や生活習慣病未治療者に対し個別で受診勧奨を行っています。さらに令和4年度には下久堅地区をモデルとし、集団健診の場を設ける等受診しやすい環境を作り、受診者に対しては重症化予防の保健指導を行います。そのほか、認知症予防、口腔機能維持、低栄養改善等のフレイル予防の内容を含むポピュレーションアプローチに取り組めます。</p>	7-③ 高齢期の健康づくり
			<p>・要介護認定者数・出現率を抑えるためには、軽度者(要支援者・総合事業対象者)に対する介護予防は重要であり、継続した取り組みが必要。</p>	<p>・市としても重要な事項と認識し、既に、短期集中通所型(訪問型)サービスC事業など新たに事業構築に取り組み、事業展開を進めているところです。引き続き、支援の必要な方の容態や、地域の特性や実情も考慮しつつ、継続した取組を進めて参ります。</p>	7-④ 介護予防(重度化防止)の推進 高齢者福祉計画・(第8期)介護保険事業計画
			<p>・介護予防の状況把握の数値化、生活支援コーディネーターなどの人材の確保なども課題。</p>	<p>・介護予防事業は、効果の検証を行いながら、取組を深化していく必要があると認識しています。検証の手法等も含め、検討すべき課題が多い状況ですが、一方で、現状では検証に必要となる、介護予防に資する様々な活動量の数値化ができていません。まずは、介護予防事業の開催状況や参加者の状況等の把握を行い、事業の数値化から進めて参ります。</p> <p>・生活支援コーディネーターは地域福祉コーディネーターと兼ねて飯田市社会福祉協議会へ業務を委託し、また、通いの場の再構築に向けてモデル地区には専任の生活支援コーディネーターの配置を委託しています。 高齢者が住み慣れた地域で、できるだけ自立した生活を送ることができるようにするためには、地域の社会資源の活用や、新たな社会資源創出等の地域づくりの推進が欠かせません。そのために必要なコーディネーターの体制や人材確保については関係団体等とも協議、検討を進めていきます。</p>	高齢者福祉計画・(第8期)介護保険事業計画

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
7 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす	社文	健康福祉部	<p>・「介護人材の確保」について、状況が把握できるデータが必要。また、将来の介護職員の必要数について、都道府県が推計値を出しており、推計値の算定基礎があると考えられる。データをもとに、介護職員の必要数の目標値と現状をKPIに加えるべき。</p>	<p>・介護事業所は規模等により必要な人員基準が定められています。現在運営している事業所では、この基準をクリアし尚且つ安全安心なサービスを提供するために、人員基準を上回る人員を配置せざるを得ない現状があります。それぞれの事業所では、雇用の形態、勤務体制等を工夫しながら、事業の採算性を高め運営している状況です。</p> <p>また、在宅サービスにおいては、サービスの必要数に応じた、適正規模の事業所の配置は困難であり、供給のバランスを整えることにも課題がある状況があります。</p> <p>・これらの状況から当市において、介護職員の必要数を目標値として算定することは相当に困難であると認識しています。</p> <p>・一方で、介護人材の確保は喫緊の課題であると認識しており、事業所等への聞き取りなどにより、現状を把握できるデータの収集に努めて参ります。</p>	<p>高齢者福祉計画・(第8期)介護保険事業計画</p>
			<p>・KPIの「要介護認定者数・出現率」について、数値の時点や目標値の考え方などの説明の付記が必要。</p>	<p>・ご指摘いただいた事項は、KPIの説明欄に付記します。</p>	
			<p>・この基本目標のねらいは「健康寿命の延伸(介護予防の推進)」であるから、KPIに健康寿命を入れるべき。(昨年は「参考」として掲載していた。)</p>	<p>・令和4年度からKPIに加えます。</p>	<p>7「市民総健康」と「生涯現役」をめざす【分野別計画】健康いいだ21</p>

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
8 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	社文	健康福祉部	<ul style="list-style-type: none"> ・共助の実践において、情報の共有、課題認識の共有、関係各所との連携が重要。好事例の横展開を期待。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員協議会会長会、健康福祉委員長が集う地域福祉活動推進会議、各地区厚生事務担当者会などにおいて情報及び課題認識を共有し、関係各所との連携を行うなかで、支え合いマップを活用したゴミ出し支援の検討や福祉有償移送サービスの取り組みなど好事例の横展開を図っています。 	8-① 地域福祉課題検討会の開催による地域福祉活動の推進 【分野別計画】 飯田市地域福祉計画・飯田市地域活動計画
			<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉課題検討会において出された課題の中で、行政の行う公助の事業展開の事例もあれば共有していくことが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな公助の事業展開の事例として、社会福祉事業者等によるごみ出し支援事業が開始されており、地域福祉課題検討会を活用して関係機関などへの情報提供を行っています。 	8-① 地域福祉課題検討会の開催による地域福祉活動の推進 【分野別計画】 飯田市地域福祉計画・飯田市地域活動計画
			<ul style="list-style-type: none"> ・地域での見守り・支え合い活動を推進するため、個人情報の適切な活用や民生児童委員と健康福祉委員の連携が重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の適切な活用については、その都度周知していますが、より一層適切に活用していただけるように「地域福祉推進のための個人情報取扱マニュアル」の作成に取り組んでいます。地域での見守り・支え合い活動を推進するために課題検討会などを通じて民生児童委員と健康福祉委員との連携が進むように取り組んでいきます。 	8-② 住み慣れた地域に住み続けられる社会の構築 【分野別計画】 飯田市地域福祉計画・飯田市地域活動計画
			<ul style="list-style-type: none"> ・住民支え合いマップは、地区によって精度にばらつきがあるため、活用を進めるうえでは一定の基準が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民支え合いマップの作成及び更新時において、マップの精度を向上させる取り組みや、活用方法について丁寧な説明を行います。 	8-② 住み慣れた地域に住み続けられる社会の構築 【分野別計画】 飯田市地域福祉計画・飯田市地域活動計画

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
8 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	社文	健康福祉部	<p>・相談者の属性、世代、相談内容にかかわらず包括的に受け止める「福祉まるごと相談窓口」を設置したことは評価できる。より一層の市民ニーズに対応した重層的支援体制が構築できることを期待するが、制度の隙間で潜在化する支援困難者に対するアウトリーチ等の推進が課題。</p>	<p>・潜在化する支援困難者の把握は、民生児童委員会長会を通じて地区民生委員会に依頼し、福祉課に報告をいただいています。また、社会福祉協議会へ委託している地域福祉コーディネーターにも把握を依頼しているところです。把握された支援困難者については関係する機関と連携し家庭訪問等を実施しています。今後は民生委員、地区保健師と連携し、気になる家庭や8050問題、ひきこもりの方がいる家庭への家庭訪問等を進めます。 また、相談先のパンフレットを作成するなど相談窓口を広く広報し、市民が相談しやすい窓口を目指します。</p>	<p>8-③ 複合化・複雑化した課題解決に向けた重層的支援体制の構築 【分野別計画】 飯田市地域福祉計画・飯田市地域活動計画</p>
			<p>・障がい者に対する正しい理解のための活動は、社会参加の推進に貢献すると考える。ハード面でのユニバーサルデザインの推進とともに心のユニバーサルデザイン啓発活動が重要である。</p>	<p>・令和3年12月の広報いいだのユニバーサルデザインの特集を契機として、誰にもわかりやすいトレマップの作成など、引き続き啓発活動に取り組みます。また、ユニバーサルデザインの考え方や方法を市民とともに学習する機会をつくります。</p>	<p>8-④ 障がい者の社会参加の推進 【分野別計画】 飯田市障害者施策に関する長期行動計画・飯田市障がい福祉計画・飯田市障がい児福祉計画</p>
			<p>・障がい者の働く場の創出、障がい者雇用の推進が必要。</p>	<p>・障害福祉サービスの就労支援事業を提供しています。令和3年度には、新たに、就労移行支援を経て一般就労した障がい者の生活面の課題解決を支援する就労定着支援事業所の開所もありました。今後、ジョブコーチとともに利用を促進します。</p>	<p>8-④ 障がい者の社会参加の推進 【分野別計画】 飯田市障害者施策に関する長期行動計画・飯田市障がい福祉計画</p>
			<p>・「③重層的支援相談件数」の目標設定の再検討を要する。</p>	<p>・現在目標設定としている相談件数は、「福祉まるごと相談窓口」で市民や庁内外の関係機関からあった相談のうち、支援プランを作成した件数を設定しています。今後は、どのくらいの相談があったのか、どのくらいの対応を行ったのかがわかるように、「福祉まるごと相談窓口」での相談対応延べ件数及び家庭訪問件数をKPI指標に掲げます。</p>	<p>8-③ 複合化・複雑化した課題解決に向けた重層的支援体制の構築 【分野別計画】 飯田市地域福祉計画・飯田市地域活動計画</p>

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管 部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
8 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	社文	健康福祉部	・地域福祉課題検討会開催地区数(地区)から一歩進めて、実際に課題解決に取り組んだ地区数が必要。	・実際に課題解決に取り組んだ地区数については、単年で地域福祉課題検討会が開催されるものではなく、継続して地域の課題に対し、課題解決に向けて取り組んでいくものであるため、全体として創出される地域福祉活動のモデル数が重要であると考えています。	8-① 地域福祉課題検討会の開催による地域福祉活動の推進 【分野別計画】 飯田市地域福祉計画・飯田市地域活動計画

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
9	20地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める	総務 市民協働環境部	<ul style="list-style-type: none"> ・地域運営組織の実態とその組織に対する活動支援の内容などを具体的に示し進められたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域運営組織の活動内容は、毎年「ムトス飯田まちづくり活動報告集」を事例集として発行するほか、ホームページで公開しています。活動に当たって資金面では、地域を代表するまちづくり委員会にはパワーアップ地域交付金、各種団体には、活動開始の支援としてムトス飯田助成金や長野県事業である元気づくり支援金などの活用を促しています。また、まちづくり委員会や各種団体への人的な支援は、各自治振興センターがおこなっており、各種団体の支援については、ムトス飯田コーディネート専門委員会などもサポート体制をとっています。 	9-① 活き活きとした住民自治を育む
			<ul style="list-style-type: none"> ・移住定住促進のため地区から貸出可能な物件情報の提供を求めるなど再調査し、空き家バンクの見直しをされたい。また、空き家のバンクホームページをより見やすくされたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住定住の推進に取り組む地域において、貸出可能な物件の把握を働きかけ、地域と連携した空き家バンクの取組を進めています。移住希望者の希望に応えるため、物件数を確保するなど空き家バンクの充実を図ります。また、空き家バンクのホームページにつきましては、システムやその費用も含めて研究します。 	9-② 地域の担い手を確保し、活力を維持するための「20地区田舎へ還ろう戦略」の推進 【分野別計画】 飯田市空家等対策計画
			<ul style="list-style-type: none"> ・当該地区だけでは解決できない地域課題もある。市がそれらを取りまとめ、その解決に向けボランティアを募集するなどの方策も検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区だけでは解決できない地域課題は、まず自治振興センターで課題内容を聞き取り、どのような支援が必要か、地域と一緒に解決にむけた方策を探っています。また、地域住民の中で特性を活かせる人材を確保できるよう、地域と連携した起業家を育成して解決に繋がるよう、人材の発掘と確保に努めています。ムトス事業におきましても市民のみなさんの「やる気」が即行動に移せるような新たな支援策を構築しており、地域課題解決に向けて多くの市民活動が生まれる取り組みとしていきます。 	9-② 地域の担い手を確保し、活力を維持するための「20地区田舎へ還ろう戦略」の推進
			<ul style="list-style-type: none"> ・パワーアップ交付金500万円増額の効果を検証されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・増額した総額500万円は、「田舎へ還ろう戦略」を始めとした様々な地域課題の解決に向けて取組を後押しするため、飯田市パワーアップ地域交付金交付要綱に規定する「地域の住民の創意により実施する地域づくりに要する費用」に該当する分として、各地区の均等割額へ上乘せしています。現在、パワーアップ地域交付金の見える化事業(費用内訳の確認)を検討しており、その事業を実施することで、効果の確認が進むものと判断しております。 	9-② 地域の担い手を確保し、活力を維持するための「20地区田舎へ還ろう戦略」の推進
			<ul style="list-style-type: none"> ・事業の継続性のため、必要な地域には複数の地域協力隊員の配置も検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊は、①地域振興や地域課題の解決のための業務(ミッション)があること ②地域の受け入れ態勢があること ③退任後の定住のための暮らしのサポートを行うことを方針に、地域と協働して導入しています。協力隊の人員については、業務量や業務遂行の事情により複数配置も可能と考えますが、具体的な対応については、地域と協議のうえ検討します。 	9-③ 中山間地域をもっと元気にする

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管 部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
9	20地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める	総務 市民協働環境部	・関係部署と連携した移住後のフォローに努められたい。	・移住後のフォローにつきましては、庁内関係部署や各自治振興センターと情報を共有し、かつ、地区と連携して、移住後の暮らしの相談・支援に取り組んでいます。また、先輩移住者と結いターン移住定住推進室で実施している移住者交流会では、移住者同士の交流を促進するとともに、移住後の困りごとや悩みの相談に乗るなかで、移住者がより理想とする暮らしに向けた継続的なサポートにつなげています。	9-③ 中山間地域をもっと元気にする
			・林業の視点も入れて活動されたい。	・豊富な森林資源を有する当地域にとって、林業及び林業従事者の確保は、地域振興のための重要な事項と捉えています。オンライン移住セミナーでは、「山の暮らし・仕事編」と題して、林業をテーマに、実際の作業の様子や林業従事者の想いについて動画配信を行いました。今後も、地域振興のほか自然環境の維持・保全や次世代への継承を踏まえ、関係部署と連携しながら、林業の活性化に向けて取組を進めていきます。	9-③ 中山間地域をもっと元気にする
			・指標の追加として「組合脱退者数」の指標設定も検討されたい。	・自治組織加入率を前年と比較することで、著しい転入増加がない限り、組合を脱退しているものと把握しています。	9-① 活き活きとした住民自治を育む
			・自治組織加入率の「地区別数値」を把握する補足資料の提供を求めたい。	・市全体の加入率は、各地区まちづくり委員会調べを集計したもので、各地区まちづくり委員会へ資料提供を依頼すれば可能であると考えます。	9-① 活き活きとした住民自治を育む

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
10 個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる	総務	市民協働環境部	<ul style="list-style-type: none"> ・エンカル消費は市民にまだなじみが薄くさらなる啓発が必要。小中学生に対するエンカル消費の教育もさらに進められたい。また、「地産地消」以外の部門でも取り組みを進められたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エンカル消費には、身近なことから地球規模のことまで様々な観点が含まれているため、対象者に合わせた内容で啓発活動を実施していきます。 ・エンカル消費の啓発の1つの柱として、市民、団体等と協働し実行委員会を組織してシンポジウムを開催しています。開催方法を検討しながら、継続していきます。 ・小中学生に対しては、学校や児童クラブ等での出前講座に取り組んでいます。今後も、関係機関等の協力を得ながら学ぶ機会を提供していきます。 ・(仮称)飯田駅前プラザを活用し、エンカル消費に関心を持つ高校生等と協働した啓発、情報発信も考えていきます。 	10-① 多様性とムツの行動力でまちづくりを推進
			<ul style="list-style-type: none"> ・LGBTの相談対応のため、NPOなどの団体や専門家などとのネットワークを構築されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、当事者団体の情報などについては、ウェブサイトでお知らせしており、また、相談があれば紹介をしています。 ・今後、当事者やその支援者などの団体や専門家の存在を、当地域内外において、さらに把握していきます。 ・そのうえで、市民からの相談に対し、団体の情報を紹介しつないだり、専門家への相談を案内したりすることができるよう、ネットワークを構築していきます。 ・今年度、職員がLGBTについて理解を深めることができるよう、当事者を講師にした研修を実施しました。今後も職員が当事者の悩みや要望を直接聴く機会を設けていきます。 ・さらに、市民の理解も必要と考えており、市民向けに、当事者の話を聴く機会を設けて、理解が進むように努めます。 	10-② 多様性が尊重され、安心して暮らせる地域づくり
			<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生社会としてどのような社会環境を目指そうとしているのか、また、共生のための取り組みとして何をすべきなのかを示し進められたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生社会推進計画第2次改定版では、基本理念として、「少子化、高齢化、人口減少時代が進む一方で、リニアがもたらす大交流時代を迎えようとしている今、将来にわたって飯田市の地域経済や地域生活を維持し、より活気にあふれ、心豊かな飯田市を築いていくために、日本人住民と外国人住民の文化・習慣の異なる市民が、その多様性を尊重しあい、活かしながら、「小さな世界都市」の実現をめざして、多文化共生社会をさらに推進します。」を標榜し、その実現のための重点戦略として「多様な価値観を認め合うことを通じた、外国人住民との多文化共生の意識の向上」～内なる国際化の推進～を掲げています。 ・この実現のためには、言葉、文化・習慣の壁が、最大の課題と考えています。 ・そして、こうした壁をなくすためには、日常的な相互理解の積み重ねが必要と認識しています。 ・この日常的な活動を見える化することによって、多文化共生に興味を抱き、共に進める側となる市民を増やしていく必要があります。 ・(仮称)飯田駅前プラザに整備する多文化共生社会推進拠点は、日常的に市民と外国人住民が交流できる場所とし、この拠点で展開する日常的な交流を、公民館と連携して各地区へと波及させ、各地区で日常的な相互理解が進む取組が積み重ねられていくといった全市的な多文化共生社会推進へとつなげていきます。 	10-③ 国籍や文化等の多様性を認め合い、外国人住民と共生する地域づくり 【分野別計画】 多文化共生社会推進計画

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管 部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
10 個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる	総務	市民協働環境部	<ul style="list-style-type: none"> 外国人側のニーズを把握されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 4年に一度の多文化共生社会推進計画策定にあたっては、外国人住民向けアンケートを実施しています。また、多文化共生市民会議にも複数の外国人住民の方が委員となり、意見をいただいています。 相談窓口に来られた方からもニーズを把握しています。また、飯田国際交流推進協会を構成する団体の皆さんと意見交換する中で、要望等について把握しています。 今後、(仮称)飯田駅前プラザにおいても、そこに集う外国人住民の方から寄せられる要望や新しい価値創造に向けた提案を伺いながら、取り組んでいきます。 	10-③ 国籍や文化等の多様性を認め合い、外国人住民と共生する地域づくり 【分野別計画】 多文化共生社会推進計画
			<ul style="list-style-type: none"> 指標として「多文化共生推進コーディネーターの人数」「駅前プラザ利用率」を追加されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生推進コーディネーターは、現在1名に意欲的に活動いただいています。増員につきましては、今後、(仮称)飯田駅前プラザでの展開や活動等を見ながら、検討していきます。従いまして今のところは指標として取りあげるといった段階にはないと認識しています。 (仮称)飯田駅前プラザでの活動は、初めのうちは、市民の皆さんに関心を持ってもらえるようなミニイベント等を意識的に仕掛けて、まずは(仮称)飯田駅前プラザに足を運んでもらうことを進めていきます。これによって、外国人住民を含む市民の皆さんが(仮称)飯田駅前プラザを訪れ、創発が生まれるきっかけとなっていくものと考えます。(仮称)飯田駅前プラザの利用者数については、外国人住民に限らず把握していく予定ですが、今のところ利用率については指標とする予定はございません。 	10-③ 国籍や文化等の多様性を認め合い、外国人住民と共生する地域づくり 【分野別計画】 多文化共生社会推進計画

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
11 地球環境への配慮が当たり前の暮らしとまちづくりの推進	総務	市民協働環境部	<ul style="list-style-type: none"> ・プラごみの分別方法などあらためて周知されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・燃やすごみに混入している「プラ資源」をリサイクルの対象としてのプラ資源へとできる限り誘導することが課題です。市広報やCATV等を通じて啓発に努めています。毎年行う組成調査の結果では、同じく混入している紙類は毎年減少している一方で、プラ資源は変動なく4パーセント程度の混入が続いています。引き続き様々な媒体を用い、更なる啓発に取り組んでいきます。 	11-④ ごみの3Rを地域ぐるみで推進 【分野別計画】 21'いいだ環境プラン第5次改訂版
			<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの3Rの目的は、焼却場や最終処分場の維持にもある。その点も加えて進められたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい分別の在り方について、日々市民の皆様をお願いする一方で、施設管理の面でも取組を進めています。令和元年度から最終処分場で埋め立てられていた稲葉CCから排出される焼却灰の再資源化を始めました。令和2年度からは、蛍光管のリサイクル回収を開始。今後も技術的に可能な3R対象品目について、研究し、取組を行っていきます。 	11-④ ごみの3Rを地域ぐるみで推進 【分野別計画】 21'いいだ環境プラン第5次改訂版
			<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題として来飯者に対するポイ捨て防止に向け、飯田IC周辺等での啓発活動にも努められたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺道路管理者の理解、協力を得ながら来飯者を対象としたポイ捨て防止啓発の実施方法等検討していきます。 	11-④ ごみの3Rを地域ぐるみで推進 【分野別計画】 21'いいだ環境プラン第5次改訂版
			<ul style="list-style-type: none"> ・自転車利用の継続には検討を要する。電気自動車用の充電ステーション設置を検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車市民共同利用システムによる自転車の貸出しは12年が経過し、この間、積極的に自転車を利用する方が多くなってきていることから、概ね所期の目的を達成したものと評価しています。今年度は、管理台数の削減による管理費用の削減と配置の合理化を図りました。今後は、管理する自転車の老朽化の実態と、利用者の需要の現状に即した維持管理台数にしていくよう精査を続け、適切な管理を進めます。 ・現在、飯田市内における充電スタンドは、自動車販売店や宿泊施設を中心に23か所(うち急速充電器7か所)設置されている状況です。また、県のデータによると、県内のEV普及率は約0.2%と低い数字であるとともに、急速充電器の設置、維持には高額な費用が必要です。今後、長野県で改訂中の「次世代自動車インフラ整備ビジョン」、EVの普及状況及び高性能かつより低価格なEVインフラの開発等に注視しつつ、継続して検討します。 	11-② 家計や事業経営を助ける省エネ型への転換 【分野別計画】 21'いいだ環境プラン第5次改訂版 飯田市地球温暖化対策実行計画

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
11 地球環境への配慮が当たり前の暮らしとまちづくりの推進	総務	市民協働環境部	<ul style="list-style-type: none"> ・ZEH仕様は市民の理解が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、飯田版ZEH仕様を策定し、ウェブサイト等を通じて周知してきましたが、さらなる普及啓発に取り組んでいきます。また、りんご並木のエコハウスを活用して、「飯田版ZEH仕様住宅」として、飯田版ZEHのPRや新築・リフォームにおける提案、生活体験等を展開していく予定です。 	11-② 家計や事業経営を助ける省エネ型への転換 【分野別計画】 21'いいだ環境プラン 第5次改訂版 飯田市地球温暖化対策実行計画
			<ul style="list-style-type: none"> ・蓄電機器は普及に時間がかかるとされるため省エネ機器に対する補助も検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・蓄電池の普及は、再生可能エネルギーの有効活用とともに地域のレジリエンス強化を図るために重要な役割となります。太陽光発電で得られた電力は、売電から蓄電による自家消費することが主流になりつつあります。また、災害時における備えから、蓄電システムへの補助金申請が増加しており、蓄電機器の普及及びそれに対する補助金のニーズは高まっていると認識しています。来年度は、EV車を災害時における蓄電機器として活用するべく、災害時に避難所へ電源供給することを条件としてEV車の購入に対しても蓄電システムの補助対象とする予定です。電化製品等においては、世間からのニーズと技術革新により、省エネ機能を搭載した機器が通常となって流通しているため、対象や補助の効果について研究が必要です。 	11-② 家計や事業経営を助ける省エネ型への転換 【分野別計画】 21'いいだ環境プラン 第5次改訂版 飯田市地球温暖化対策実行計画
			<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電は景観、環境、防災等への影響に配慮して進められたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田市としては、太陽光発電システムの設置による再生可能エネルギーの普及に努めているところですが、遊休地などへの一定規模以上の太陽光発電システムの設置に関しては、土地利用調整条例、景観条例に基づき、景観、防災等の基準を遵守したうえで設置いただくこととしております。 	11-③ エネルギーの域産域消による環境と経済の地域内好循環と防災力の強化 【分野別計画】 21'いいだ環境プラン 第5次改訂版 飯田市地球温暖化対策実行計画

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
11 地球環境への配慮が当たり前の暮らしとまちづくりの推進	総務	市民協働環境部	・防災力強化の面で公共施設での蓄電を検討されたい。	・21'いいだ環境プラン第5次改訂版のターゲット5-4において、非常時における地域での蓄電池の活用の検討を掲げています。小中学校や公民館等の公共施設を中心に、太陽光発電システムを設置していますが、これらに関しては、災害時の避難場所に指定されている施設も多くあります。災害時における電源確保のため、蓄電システムの設置は有効であることから、検討を進めます。来年度においては、災害時に避難所へ電源供給することを条件として蓄電システムの補助対象をEV車にまで拡大することで、災害時の電源を確保し、地域のレジリエンスの強化を図ります。	11-③ エネルギーの域産域消による環境と経済の地域内好循環と防災力の強化 【分野別計画】 21'いいだ環境プラン第5次改訂版 飯田市地球温暖化対策実行計画
			・小水力発電は費用対効果を勘案した上で進められたい。	・小沢川小水力発電、野底川小水力発電ともに事業者負担で事業を進めており、設計及び建設に係る費用は事業者負担です。運転開始になるまでは、実質的に収入がないのが実情であり、スタート支援としての一定の費用をどのようにするか、その額と事業者の経営状況を勘案しながら適切な対応を行っていく必要があります。また、発電事業者、地域とともに、地域環境権条例の認定案件として地域振興に資する取組となるよう協議を進めています。どちらも再エネ審査会において外部の有識者により、事業の公共性とあわせて安定した事業収益について審査しています。	11-③ エネルギーの域産域消による環境と経済の地域内好循環と防災力の強化 【分野別計画】 21'いいだ環境プラン第5次改訂版 飯田市地球温暖化対策実行計画
			・木質バイオマスについては、ペレットから薪への転換を検討されたい。	・CO2の削減及び地域エネルギーの域産域消においては、ペレットと薪のいずれも重要です。木質バイオマス機器の設置に関しては、ペレットと薪の両方を対象として補助金を交付しています。それぞれに長所がありますが、ペレットストーブは、燃料の燃焼効率、稼働時の煙の量、自動着火や温度設定などの使いやすさ、メンテナンスにかかる費用及び労力、燃料のコスト面などが優れています。どちらも木質バイオマスの推進にあたり、普及に向けた取り組みを進めます。	11-③ エネルギーの域産域消による環境と経済の地域内好循環と防災力の強化 【分野別計画】 21'いいだ環境プラン第5次改訂版 飯田市地球温暖化対策実行計画

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
11 地球環境への配慮が当たり前の暮らしとまちづくりの推進	総務	市民協働環境部	<ul style="list-style-type: none"> ・代替地に建設する住宅に対してZEH仕様を求めることが、誰もが訪れたい地域として適切と言えるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア移転街区に飯田版ZEH仕様の要素を取り入れた「環境共生住宅エリア」をモデル地区として構築して、省エネルギー住宅の普及啓発を行うため、今年度から環境共生住宅建設補助金を創設し、順次、エリア内の新築住宅への交付が進んでいます。自然豊かなこの地域の自然エネルギーを生活スタイルの中に取り入れ、環境配慮の中にも無理のない快適な暮らしを実現し、将来にわたり経済的にも有利で気候風土をふんだんに活かした心豊かな暮らしを送ることができるエリアを構築することで住みやすく魅力のある地域の創出につながると考えます。 	11-④ リニア駅周辺におけるモデルエリアの構築 13-② リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備効果を地域振興に活かす広域交通拠点整備と広域道路ネットワークの強化 【分野別計画】 21'いいだ環境プラン第5次改訂版 飯田市地球温暖化対策実行計画 リニア推進ロードマップ リニア駅周辺整備計画
			<ul style="list-style-type: none"> ・「緑と生物多様性の保全」「ジオパーク」の観点がなく、これらを加えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の小戦略に生物多様性及びジオパークについて、実践に向けた学習の機会に関する記述を加えました。また、緑と生物多様性の保全及びジオパークの取組の観点として以下のことに取り組みます。 ①自然保護地区の保全に努め緑を守ります。②環境チェッカーによる四季折々の動植物生態報告を市民に広く周知し、生物多様性の知識を広げます。③自然観察会を開催し、自然とのふれあいの場を創出します。④ユネスコエコパーク活動に取り組み、南アルプスの持つ生物多様性の普及啓発に努めます。⑤ジオパーク活動に取り組み、南アルプス遠山郷の大地と文化の魅力を伝える活動を継続します。また、日本ジオパーク委員会の再認定審査に向け、南アルプスジオパーク協議会の活動に取り組みます。⑥「南アルプス遠山郷エコジオ講座」を開催します。 	11-① 環境問題を知り、学び、実践に移す 【分野別計画】 21'いいだ環境プラン第5次改訂版
			<ul style="list-style-type: none"> ・「緑と生物多様性の保全」「ジオパーク」「ZEH仕様」の進捗を把握する指標を追加されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「緑と生物多様性の保全」については、環境チェッカーによる「動植物調査報告件数」、「自然環境保全啓発活動回数」、「自然と触れ合いを持ったことがある市民の割合」を事務事業進行管理表における指標とします。 ・「ジオパーク」については、「南アルプス遠山郷を訪れた人数」と新たに設ける「南アルプスエコジオ講座開催回数」を事務事業進行管理表における指標とします。 ・ZEH仕様の進捗については状況把握に努め、指標の設定について検討します。 	11-① 環境問題を知り、学び、実践に移す 11-② 家計や事業経営を助ける省エネ型への転換 【分野別計画】 21'いいだ環境プラン第5次改訂版 飯田市地球温暖化対策実行計画

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管 部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
12 災害や社会リスクに備え、社会基盤を強化し、地域防災力の向上を図る	総務・産建	危機管理室 ・建設部	・法改正により「避難指示」に一本化されたことを踏まえ実効性ある学習会を開催されたい。	・年60回程度開催している職員による出前講座において、避難情報の一本化のみならず、避難のあり方全般にわたって引き続き積極的に啓発を行っていきます。 ・またリスクの高い集落等においては、土砂災害から命を守る避難のあり方検討会を開催し、集落全体でそのリスクや避難行動について共有化を図れるよう進めます。	12-① 災害情報伝達手段の多様化と避難の実効性を高める 【分野別計画】 ・市地域防災計画
			・地域での訓練に児童生徒の参加を進められたい。	・各地区自主防災組織が主催する訓練等に小中学生が参加できるよう積極的に促していきます。	12-② 災害対策本部の機能強化を図り、より実践的な防災訓練の実施 【分野別計画】 市地域防災計画
			・多様な情報伝達手段としてまちづくり委員会とも連携し災害情報メールの普及にも取り組まれたい。	・防災行政無線デジタル化整備事業の進捗に伴い、いいだ安全安心メールのみならず地域情報アプリやSNSなど多様な媒体で情報を入手できるよう進めています。 ・安全安心メールは3万件を超える登録がありますが、引き続きより登録が進むよう啓発していきます。	12-① 災害情報伝達手段の多様化と避難の実効性を高める 【分野別計画】 ・市地域防災計画
			・地域の防災訓練は、生徒児童の参加や災害弱者等にも配慮したより実践的なものとされたい。	・各地域における防災訓練手法については、より実践的な訓練が行えるようマニュアルの提示などを行ってきています。引き続き災害対応時に役立つ様々な方法が習得できるよう周知を図ります。	12-② 災害対策本部の機能強化を図り、より実践的な防災訓練の実施 【分野別計画】 市地域防災計画
			・有事の際、地区自主防災の機能が十分発揮できる組織体制構築に向けて地区への支援をされたい。	・平時の備えとして、災害対応体制の構築並びに充実を図るための検討について、これまでも専門的知見を提供することは行っており、要望をいただければ随時対応します。	12-② 災害対策本部の機能強化を図り、より実践的な防災訓練の実施 【分野別計画】 市地域防災計画

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
12 災害や社会リスクに備え、社会基盤を強化し、地域防災力の向上を図る		総務・産建 危機管理室 ・建設部	・引き続き課題である団員確保に努められたい。	・消防団員の確保については全国共通の課題であり、当市においても関係する皆様方と連携して課題解決に向けて引き続き努力します。	12-③ 飯田市第12次消防力(消防団)整備計画に基づく消防力の維持・向上 【分野別計画】 第12次消防力整備計画
			・通学路アクションプログラムについて、まちづくり委員会や教育委員会と情報共有し連携して進められたい。	・教育委員会事務局が主管し当室並びに道路管理者等が参加する飯田市通学路安全検討委員会において危険箇所等の情報を共有し、各学校及び各地区まちづくり委員会とも連携して通学路の安全性向上に努めています。	3-⑧ 防犯・通学路の安全対策・環境整備・気候変動対応 12-④ 通学路生活道路の安全確保と高齢者人身交通事故の抑止
			・前期に提言した「レッドゾーンの安全対策」について、関係機関と協議し重ねて取り組まれたい。	・土砂災害特別警戒区域の解消のためには、県による急傾斜地法に基づく整備が行われることが前提であり、その促進について引き続き県へ要望してまいります。また、土砂災害防止法の趣旨を踏まえ、当該区域内に居住する者に対する避難行動啓発についても引き続き行っていきます。	12-① 災害情報伝達手段の多様化と避難の実効性を高める 12-⑤ 災害時にも都市機能が維持でき、暮らしを支える社会基盤の戦略的強靱化
			・準用河川の調査については、令和5年と言わず早急に調査を進めて河川台帳の整備を完了させ、整備計画を策定されたい。	・準用河川の危険箇所調査は令和2年度から令和5年度の計画で進め、危険箇所調査完了後に整備計画及び河川台帳の整備を進める計画です。早期に整備計画を策定するよう努めてまいります。	12-⑤ 災害時にも都市機能が維持でき、暮らしを支える社会基盤の戦略的強靱化
			・緊急避難場所となっている公園や小中学校等のトイレの洋式化はスピード感を持って進められたい。	・指定避難所及び指定緊急避難場所となっている箇所のトイレ等の環境改善については令和4年度から令和7年度までの計画で整備を行います。	12-① 災害情報伝達手段の多様化と避難の実効性を高める 【分野別計画】 ・市地域防災計画

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
12 災害や社会リスクに備え、社会基盤を強化し、地域防災力の向上を図る	総務・産建	危機管理室 ・ 建設部	・小中学生の参加を促し、防災訓練参加者については目標値を見直されたい(上方修正)。	・ご意見を踏まえ目標値について上方修正を行います。	12-② 災害対策本部の機能強化を図り、より実践的な防災訓練の実施 【分野別計画】 市地域防災計画
			・通学路に関する事故が全国的に見られることから、通学路アクションプログラムの対応状況がわかる指標を加えられたい。	・主管部局の教育委員会の下、危機管理室、建設部の他に飯田国道事務所、飯田建設事務所、飯田警察署が通学路アクションプログラムに基づき整備を行っています。 ・ご要望の指標については、戦略3-⑧において検討します。	3-⑧ 防犯・通学路の安全対策・環境整備・気候変動対応
			・「河川の危険個所の調査状況」「人身交通事故件数」を評価指標に加えられたい。	・準用河川の危険個所の調査状況及び人身交通事故件数について評価指標に加えます。	12-④ 通学路生活道路の安全確保と高齢者人身交通事故の抑止 12-⑤ 災害時にも都市機能が維持でき、暮らしを支える社会基盤の戦略的強靱化

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
13	リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する	産建・リニア	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な土地利用の推進にあたり、条例による開発行為規制などを災害対策の視点で再度確認し、必要があれば見直しをされたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市では、平成19年6月に土地利用調整条例を制定し、盛土などの土地形質の変更に係る行為の面積が一定規模(1,000㎡)を超える場合は、当該条例の届出対象として、適切な雨水排水設備や調整池等の設置などを求めています。 ・平成29年12月にはこの条例を改正して、開発による土砂災害の防止の観点から「土地の安全上必要な措置に関する基準」を追加しております。 ・現在、長野県により「盛土対策条例」の制定が進められていますが、詳細が示された段階で市の条例との調整が必要であれば見直しを行って参ります。 	13-① リニア・三遠南信時代を見据えた良好な土地利用の推進
			<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅周辺整備について、各プロジェクトの進捗状況を適宜議会に報告、市民に開示されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのPJでは、デザインノートの具現化に必要な機能を検討し、その成果を実施設計に落とし込むこととしていますが、その検討経過について令和4年第1回定例会で報告するとともに、今年度末までとしている実施設計(土木関係)業務の成果を踏まえて、来年度5月までに、様々な観点からの幅広い意見をいただけるよう、市民にわかりやすい形で公表します。 	13-② リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備効果を地域振興に活かす広域交通拠点整備と広域道路ネットワークの強化
			<ul style="list-style-type: none"> ・三遠南信道の全線開通を見据え、天龍峡パーキングエリアの有効活用について、引き続き国との協議及び検討を進められたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天龍峡パーキングエリアの有効活用に向け、国との協議を継続して進めて参りましたが、この結果、令和3年11月26日から天龍峡パーキングエリア内の一般部駐車場は飯田市にて管理を行うこととなりました。 ・また、令和4年4月1日からは情報発信施設、トイレ、芝生広場等についても、飯田市で、管理する方向で協議を進めているところです。 ・引き続き、天龍峡パーキングエリアの有効活用に向け国との協議を進めます。 	13-② リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備効果を地域振興に活かす広域交通拠点整備と広域道路ネットワークの強化
			<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な観光地等へ移動させるための導線として、路線、近距離のタクシー、レンタル乗り物などの活用について研究されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地等への移動手段等については、リニアの二次交通と合わせて検討を行う必要があると考えており、今年度委託している二次交通の在り方調査業務の結果も踏まえ、来年度以降、観光地等を含む様々な拠点と交通結節点を結ぶルートを想定しながら、適切なモビリティ等について研究を進めます。 	13-③ リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、AI等の技術を活用したスマートモビリティの実装
			<ul style="list-style-type: none"> ・新たなモビリティ検討チームによる取り組みの方向性を示されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リニアの二次交通はもちろんのこと、持続可能な地域公共交通を構築する上でも、新たなモビリティの検討は欠かせませんが、現在は、交通結節点の機能の具現化に向けての検討を先行させており、具体的なモビリティの検討は、今後、導入に必要な条件と可能性の検証等を行いつつ、実装化に向けた研究を進めます。 	13-③ リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、AI等の技術を活用したスマートモビリティの実装

「いいだ未来デザイン2028」の中期計画2年目へ向けて～令和3年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書～への対応状況

基本目標	委員会	主管部局	「いいだ未来デザイン2028 戦略計画」への提言	提言への対応状況の説明	
				(各基本目標の評価内容を踏まえ、考え方や展開方針・特筆すべき事項について記載)	(関連する主な戦略計画及び分野別計画等を記載)
13	リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する	産建・リニア	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な地域公共交通について、当地域における移動困難者や、運転免許返納後の移動手段の確保は今後も重要な課題となるため、担当部署の枠を超えた検討、協議をされたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動困難者や免許返納者の移動手段の確保への対応が進むよう、地域住民の移動を担う交通事業者(福祉有償運送含む)、各々抱える様々な課題・問題を共有・整理し、行政(健康福祉部・リニア推進部・危機管理室)が一体となって協議する場(組織)をつくり、そこでの議論を重ねることにより、利便性の高い持続可能な地域公共交通の構築を目指します。 	13-③ リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、AI等の技術を活用したスマートモビリティの実装
			<ul style="list-style-type: none"> ・JR飯田線との接続方法についての検討状況が不明である。将来にわたる費用対効果まで示した上で、議会が検討できるよう準備されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リニアとJR飯田線との望ましい接続方法については、まずは市内及び周辺地域の各拠点への移動実態を把握し、その上で二次交通の在り方を総合的に勘案する中で検討を進めるべく、今年度(令和3年度)調査業務を委託しているところであります。調査結果については、費用・所要時間・経路等の観点を踏まえつつ、乗換新駅設置の場合と比較できる形で、3月議会で報告する予定です。 	13-③ リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、AI等の技術を活用したスマートモビリティの実装
			<ul style="list-style-type: none"> ・行政電子サービスの拡充においては、国のモデル事業に積極的に応募し、補助制度を活用するなど、市民サービスに資するよう先進市の取り組みを参考にスピード感を持って取り組まされたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国のモデル事業に取り組むことは、国等による指導助言、自治体負担の軽減などのメリットがあることから、常に情報収集していきます。 ・事業の実施には、課題整理やデジタル技術の具体的な活用方法についての検討が必要になるため、今後着手する地域の課題解決に向けたデジタル技術の活用を研究する中で整理します。 	13-④ 市民サービスを向上するデジタル化の推進
			<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化、先端技術活用推進に向けた早期実装のため、組織体制の強化を早急に取り組まされたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル社会の形成といった新たな課題を踏まえて、組織機構改革により令和4年度からデジタル推進課を設置し、デジタル技術の活用を推進します。 	13-④ 市民サービスを向上するデジタル化の推進